

平成25年度事業報告

1 事業活動の概要

当会は、昭和41年に社団法人として設立されましたが、今回の公益法人改革に伴い、平成25年4月1日に「一般社団法人 科学技術と経済の会」に移行いたしました。

創立以来、我が国が科学技術に立脚した先進的で豊かな国、そして国際的にも貢献できる存在感のある国となることに資するべく、経営研究、人材育成、普及啓発、国際交流、受託・助成調査研究など、広く技術と経営の課題について切磋琢磨してまいりましたが、この度の一般社団法人への移行をさらなる飛躍のステップとすべく、平成25年度は、良質な活動の適時・適切な実施、自立した事業の強化による経営体力強化、会員の維持・充実による活動基盤の安定化等を図るとともに、真に会員の皆様と世の中のお役にたてる産官学の効果的なネットワーク化を図った活動の推進に積極的に取り組みました。

さて、リーマンショックの後も、引き続き、東日本大震災、タイの洪水、ユーロ圏の債務危機、歴史的円高、中国の成長鈍化、中国・韓国と日本の緊張増大、米国の「財政の崖問題」や「FRBの金融緩和縮小問題」、さらにTPP交渉の難航や緊迫化するウクライナ情勢など、世界経済・日本経済に大きな影響を与える出来事が次々と発生し、平成25年度も内外ともに不透明な憂慮される状況が続きました。

しかしながら、国内的には、自民党安倍内閣の積極的な「アベノミクス」に対する期待感に加え、このところ比較的安定している円相場、そして2020年オリンピックの東京開催の決定などを背景として企業・個人とも活力が回復しつつあり、今春は、かなりの企業がベースアップを実施しました。この動きを幻想で終わらせないためには、「アベノミクス」の第三の矢である成長戦略がしっかりと実態あるものになる事が不可欠であり、まさに正念場の時にきています。

一方、平成24年度には、京都大学の山中先生が、iPS細胞作成の業績によりノーベル賞を受賞されるという素晴らしい出来事がありました。関係者が英知を結集し、産官学を挙げて取り組むことにより、世界に通用する優れた成果を生み出しうる「日本の底力」を証明した心強い出来事ですが、この教訓を生かし、次々と日本発のイノベーションを生み出していくことが望まれます。

このような観点から、イノベーションに対するモチベーションの向上を図り、日本経済の競争力向上や社会変革に貢献すべく、平成24年度に文部科学省と日本経済新聞社の後

援のもと、「技術経営・イノベーション賞」を創設し、第1回の表彰を実施しましたが、平成25年度には、さらに経済産業省と日刊工業新聞社の後援を頂き第二回の表彰を実施しました。

また、従来から当会の広範な研究活動を通じて得られた成果をもとに、提言・行動型の活動に積極的に取り組んできましたが、平成25年度には、よりシステムティックで充実した提言を目指して技術経営会議に政策委員会を設置し活動を開始しました。

さらに、我が国が今日のような厳しい状況に置かれている時、海外との交流を深め関係諸国から謙虚に学ぶことも重要であることから、平成25年度には、遠くない将来、世界経済の中心軸の一つとなるアジア諸国に焦点を当てた「アジアビジネス研究会」を設置し研究を開始しました。

いまだ不透明な内外の情勢、そして、大きな危機感を持って叫ばれる日本の国際競争力の低下。このような混沌とした、そして高度な判断と的確・迅速な行動を求められる時にこそ、技術開発、経営研究、人材育成などのポテンシャルを高めていくことが極めて重要であるとの観点に立ち、平成25年度も積極的な活動を展開しました。

(1) 経営研究事業

当会の事業活動の中核である経営研究事業につきましては、平成25年度も、従来どおり、参加者相互の積極的な自主活動を基本に事業を展開しました。

「技術経営会議」では、継続施策を充実強化するとともに、イノベーション指向の高まりやグローバル化の進展等に対応して、従来の科学技術・イノベーション懇談会を専門委員会に衣替えし、検討を深めました。また、政策提言への取組み強化を図るため、新たに「政策委員会」を設置して、より効果的でメリハリの利いた提言を目指して取り組みました。さらに、平成26年度に、社会的な喫緊の課題である「ビッグデータと技術経営」、「社会インフラとレジリエンス」の二つの委員会をスタートさせるべく準備を進めました。

「明日の経営を考える会」では、マネジメント研究会、ワーキングライフ研究会など、若手の人材育成活動の一層の充実を図りました。特に、後者は、平成24年度に女性が元気に活躍する事が「明日の経営」の要の一つであるとの観点から「明日の働き方を考える会—女性の視点から」としてスタートさせたものを、平成25年度に「ワーキングライフ研究会」に衣替えし、テーマも“働く時間をデザインする”を設定して活動をより具体化、

深化させました。また、例会や見学会への参加者も年々増加し、平成25年度はのべ510名を超えました。

「技術競争戦略研究会」については、“変化に柔軟に対応して発展するオンリーワン経営に学ぶ実践的経営学”をテーマに、平成25年4月に第IX期の研究会を開講し、平成26年3月に閉講しました。オンリーワン企業の経営哲学、経営戦略に対する参加者の関心が高く、研究意欲も旺盛なことから、引き続き平成26年4月より第X期の研究会を開講すべく準備を進めました。

「アジアビジネス研究会」については、平成25年度に第一期の研究会をスタートさせました。第一期は、将来、世界経済の中心軸となるアジア諸国のうち、GDP成長率、ODA案件とのかかわり、政府の強化地域等の状況を勘案して、カンボジア、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、インドネシアを重点的に研究し、特別プログラムとして、ベトナム・ミャンマーを訪問して現状を実体験しました。第一期で成果を得られたことから、更にアジアのビジネス環境をより深く掌握するため、平成26年度第二期「アジアビジネス研究会」をスタートさせるべく、その準備を進めました。

(2) 人材育成事業

平成25年度も経営研究事業等を通じて、人材育成の強化に努めました。また、受託型、オーダーメイド型の「ICT研究会」については、参加者数、研究内容等も年々充実し、トップマネジメントとのディスカッションや現場研修等の充実強化を図り、主体性のある自立型の闊達な人材の育成に努めました。さらに、中規模企業等の要請に応え、その社員を対象に事業継続計画（BCP）の策定研修を実施しました。

(3) 普及啓発事業

平成25年度も、当会と会員の皆様や世の中を結ぶ双方向の重要なコミュニケーションとして、積極的にその充実強化に努めました。

「技術・経営シンポジウム」については、平成24年度に実施した“我が国のサステナビリティを検証する”の第二弾として、平成25年4月に“我が国のサステナビリティを強化・推進する”をテーマとして第41回を実施しました。

「機関誌“技術と経済”」については、掲載論文、MOT学会論文など内容の充実を図り、平成25年度末で第565号を発行するに至りました。

「ホームページ」については、平成25年4月1日の一般社団法人への移行に合わせて一新しました。いうまでもなく当会から会員ならびに世の中に向けたスピーディで充実した情報発信力の強化が図れる重要なツールであり、タイムリー、ビジュアル、シンプルなホームページの構築に努めました。

「技術経営・イノベーション賞」については、さらなる充実を図り、平成26年2月に第2回の表彰を実施しました。（文部科学大臣賞1件、経済産業大臣賞1件、会長賞2件）

「支部活動」については、名古屋支部において、談話会・講演会・企業見学会など、月1回のペースで積極的な充実した活動が展開されました。

（4）国際活動事業

平成25年度は、韓国産業技術振興協会が主催する“KOITAグローバルフォーラム2013”に、住友電工顧問の吉海正憲氏を講師として派遣するなど交流を深めました。また、アジアビジネス研究会では、ベトナム・ミャンマーに訪問団を派遣し、アジア諸国の産業政策に関わる工業団地訪問や、進出企業、海外JICA事務所、JETRO事務所を訪問し、海外進出状況の理解を促進しました。

（5）受託・助成事業

“受託・助成事業”については、（一財）新技術振興渡辺記念会様からの調査研究を中心に参画させて頂きました。残念ながら、平成25年度も前年度に引き続き国や独立行政法人への参画は出来ませんでした。

なお、一般社団法人技術同友会様から受託している同会の事務局業務については、同会の積極的な活動展開に伴い、例会、幹事会、委員会、シンポジウム、技術経営士関連業務などが増加しました。

（6）会の運営状況等

“永年会員表彰関係”については、個人会員11名に対し、表彰を行いました。

公益法人改革については、平成24年5月の第46回総会の決議を経て、同年6月5日、内閣府に対して一般社団法人への移行認可申請を行い、同年7月20日に公益認定等委員会から「妥当」である旨の答申を得ました。これを受け、平成25年4月1日に移行登記

を完了しました。

会員数については、個人会員の高齢化や、日本経済が立て続けに未経験の厳しい試練に遭遇する中で、当会の活動の重要な基盤である会員の積極的な維持拡大に努めましたが、個人会員、特別会員とも退会が入会を上回り、それぞれ、513名、95社となりました。

平成25年度は、ここ数年にわたる厳しい状況が続く中、残念ながら少なからぬ退会も発生しました。しかしながら、このような状況に対処すべく、事業拡大や受託業務の受注増、会員の維持拡大などによる収入増に努めつつ、同時に、思い切った事業運営の効率化に努めた結果、事業収支の均衡を図る事が出来ました。

平成25年度、関係各位のご支援、ご協力により、当初の事業計画を達成する事が出来ました。厚くお礼を申し上げます。

2 経営研究事業

2-1 技術経営会議

わが国産業の発展を目指し産業界の経営トップが業界横断的な連携を強化し、産業共通の基盤に立って科学技術と経営に関する諸課題についての情報収集、意見交換、討議、並びに調査研究を行うことを目的に活動した。主な内容は以下の通り実施した。

◇本会議		
開催日	内 容	開催場所
第 79 回箱根本会議 2013 年 8 月 30 日 ～8月31日	企業見学：富士フイルム(株) 先進研究所 (足柄) 講演：富士フイルム(株)の事業とその後 講師：富士フイルム(株) 参与 井上 伸昭 氏	ザ・プリンス箱根
	特別講演 1：経済レジリエンスと国力とイノベーション 講師：内閣府官房参与 藤井 聡 氏	
	特別講演 2：科学技術イノベーションについて 講師：内閣府総合科学技術会議議員 久間 和生氏	
	特別セッション ラウンドテーブル討論：日本再興とイノベーション	
	特別講演 3：技術経営から見た日本の企業の課題 講師：京都大学大学院 経済学研究科 教授 武石 彰 氏	
	記念講演：インテリジェンス感覚を磨くために～台頭する中国とどう向き合うか～ 講師：外交ジャーナリスト 作家 手嶋 龍一 氏	
	特別講演 4：脳科学がビジネスを変える～ニューロイノベーションへの挑戦～ 講師：NTTデータ経営研究所 エグゼクティブコンサルタントマネージメントイノベーションセンター長 萩原 一平 氏	
特別講演 5：元気で長生き・7つの習慣 講師：東京農工大学大学院客員教授 跡見 順子 氏		
第 80 回本会議 2014 年 2 月 18 日	特別企画【パネルディスカッション】 テーマ：『イノベーションをいかに成功させたか～本音で語る、乗り越えたハードル～』 ・モデレータ：山下 徹 氏 技術経営会議議長 ・アドバイザー：丹羽 清 氏 東京大学名誉教授 ・パネリスト：文部科学大臣賞, 経済産業大臣賞, 科学技術と経済の会会長賞の受賞者の皆様	ホテルグラン ドパレス

◇定例会		
開催日	内 容	開催場所
第 83 回 2013 年 6 月 12 日	特別講演：科学技術イノベーション総合戦略 講師：内閣府大臣官房審議官 中野 節 氏	ホテルグラン ドパレス
第 84 回 2013 年 11 月 12 日	特別講演 1：競争力を高める：『第 3 世代の技術経営 (MOT)』へ向けて 講師：スイス連邦工科大学 教授 フーゴ・チェルキー氏 特別講演 2：20 年来の課題～日本にイノベーションをどう興すか？ 講師：経済産業省 大臣官房審議官 安永 裕幸 氏 メンバースピーチ：わが国の民間航空機用エンジン事業のこれまでと将来展望 講師：(株)I H I 相談役 伊藤 源嗣 氏 来賓挨拶：経済産業大臣 茂木 敏充 氏	
◇代表者懇談会		
開催日	内 容	開催場所
第 16 期第 4 回 2013 年 4 月 10 日	講演：IT 環境が進化する中、グローバルなデジタル訴訟社会で勝ち残るために 講師：AOSリーガルテック(株) 代表取締役社長 佐々木 隆 氏	ホテルグラン ドパレス
第 16 期第 5 回 2013 年 5 月 15 日	講演：パラダイムシフトが生じる国際社会において産業界へのアドバイス 講師：(株)日本総研国際戦略研究所理事長 田中 均氏	
第 17 期第 1 回 2013 年 10 月 22 日	講演：アベノミクスとビジネスチャンス 講師：(株)三菱総合研究所 研究理事 村上 清明 氏	
第 17 期第 2 回 2014 年 12 月 3 日	講演：TPP をめぐる最近の状況 講師：内閣官房 TPP 政府政策本部 参事官 高橋 和久 氏	
第 17 期第 3 回 2014 年 1 月 21 日	講演：今後の労働法制改革の課題 講師：早稲田大学法学学術院 教授 島田 陽一氏	
◇エネルギー・環境専門委員会 委員長：(株)東芝 執行役専務 須藤 亮 氏		
開催日	内 容	開催場所
第 9 回 2013 年 5 月 17 日	講演：地球環境とエネルギーセキュリティー 講師：北海道大学大学院 工学研究院・工学院エネルギー環境システム部門・専攻原子炉工学研究室 教授・学科長 奈良林 直 氏	JATES 会議室

◇科学技術イノベーション専門委員会 委員長：三菱電機(株) 顧問 齊藤 正憲 氏		
開催日	内 容	開催場所
第7回 2013年4月11日	講演：知的資本経営を目指して 講師：王子ホールディングス(株) 研究開発本部 顧問 宗定 勇 氏	JATES 会議室
第8回 2013年8月5日	講演：研究開発を取り巻く会計・税務の実務環境について 講師：(株)日立製作所 タックスアカウンティング センター長 川崎 直行 氏 (株)日立製作所 財務一部 担当部長 今給黎 真一 氏	JATES 会議室
第9回～第12回 2013年12月12日 2014年1月16日 2014年2月6日 2014年3月7日	議論 テーマ①：イノベーション創出のために、国プロ等の大型プロジェクトのあるべき姿を議論 テーマ②：グローバル経営インフラとしての人事システムのあり方について議論	JATES 会議室
◇政策委員会 委員長：(株)NTTデータ 取締役相談役 山下 徹氏		
開催日	内 容	開催場所
第4回 2013年5月7日	講演：知的財産戦略などに関する最新の話と情報交換 講師：東京大学 政策ビジョン研究センター 教授 渡辺 俊也 氏	JATES 会議室
第5回 2013年8月7日	講演：INNOVATING FOR ASIA (シンガポールにおける国際的研究開発拠点の取り組みについて) 講師：シンガポール共和国 経済開発庁副次官 Mr LIM Swee Nian 氏	ホテルグラン ドパレス
第6回 2013年9月27日	講演：オランダ農業も参考にした日本の施設園芸の展開について 講師：農林水産省 花き産業・施設園芸振興室長 川合 豊彦 氏	JATES 会議室
第7回 2014年2月3日	講演：当面のエネルギー政策について 講師：経済産業省 資源エネルギー庁 審議官(エネルギー・技術担当) 中西 宏典 氏	JATES 会議室
第8回 2014年3月11日	講演：新成長戦略における医療・健康政策の動向について 講師：厚生労働省 医政局 研究開発振興課長 一瀬 篤 氏	JATES 会議室

◇ビックデータ懇談会 委員長:東京大学教授 元橋一之氏(平成26年度委員会に移行予定)		
開催日	内 容	開催場所
第1回 2014年2月21日	講演:オープンイノベーションへのいざない(イン トロダクション) 講師:東京大学 工学系研究科 教授 元橋 一之 氏	JATES 会議室
第2回 2014年3月27日	講演:医療マネジメントとビッグデータ 講師:岐阜大学大学院 医学系研究科 教授 紀の定 保臣 氏	JATES 会議室

2-2 明日の経営を考える会

「特徴化経営の推進」に努力する異業種企業が集まり、新しい企業環境に適応する経営研究を進め、併せて会員相互の交流を強化するために以下の事業活動を推進した。

[平成25年度活動方針]

1. 体制の充実と会員の維持増強によりメンバー満足度の向上を図る
2. 企業経営に役立つ情報の発信基地とする

◇例会		
開催日	内 容	開催場所
第133回 2013年5月23日	特別講演:衛星利用の今 講師:(独)宇宙航空研究開発機構 有人宇宙ミッション本部 事業推進部長 五味 淳 氏	ホテルグラン ドパレス
第134回 2013年7月18日	特別講演:大きく変化する市場で勝ち残る技術経営戦略 講師:東京農工大学 客員教授 永島 晃 氏	
第135回 2013年10月24日	特別講演:プロジェクトと戦う武器を磨くープロジ ェクトマネジメント(PM)の本質と組織サポートー 講師:アイシンク(株) 代表取締役 伊藤 健太郎 氏	
第136回 2013年11月21日	特別講演:カラーユニバーサルデザインー脳科学の 知見の実社会への還元 講師:東京大学 分子細胞生物学研究所 脳神経回路 研究分野 准教授 伊藤 啓 氏	
第137回 2014年1月23日	特別講演:JALの劇的V字回復を支えた社員の意識 改革とIT 講師:(株)ドリーム・アーツ代表取締役社長山本孝明氏	
第138回 2014年3月20日	特別講演:経営戦略としてのダイバーシティマネジ メントー女性の活躍により企業を活性化するー 講師:(公財)21世紀職業財団会長 岩田 喜美枝 氏	

◇代表者・幹事会		
開催日	内 容	開催場所
第 128 回 2013 年 5 月 15 日	テーマ：G 空間技術の最新動向と期待される効果について スピーチ：NTT 空間情報(株) 代表取締役社長 猪瀬 崇氏	JATES 会議室
第 129 回 2014 年 2 月 20 日	テーマ：スマホよもやま話 スピーチ：ドコモ・モバイル(株) 代表取締役社長 小森 光修 氏	
第 130 回 2014 年 2 月 20 日	テーマ：らでいしゅぼーやのビジネスモデルと今後の展開 スピーチ：らでいしゅぼーや(株) 代表取締役副社長 小関 純氏	
◇マネジメント研究会		
コーチ：(株)サイバー創研 取締役相談役 山縣 淳 氏 テーマ：深刻な脅威に企業としていかに対応するか 2013 年度参加会員企業：9 社 15 名		JATES 会議室
◇ワーキングライフ研究会		
テーマ：働く時間をデザインする 2013 年度参加会員企業：8 社 10 名		JATES 会議室
◇見学会		
第 90 回 (2013 年 4 月 23 日) キヤノン(株)本社 キヤノンギャラリー 第 91 回 (2013 年 6 月 26 日) 大成建設(株) 技術センター 第 92 回 (2013 年 9 月 20 日) (独)情報通信研究機構 (NICT) 本部 第 93 回 (2013 年 12 月 6 日) (独)放射線医学総合研究所 (NIRS) 第 94 回 (2014 年 2 月 13 日) 日産自動車(株) 横浜工場		

2-3 ライフサイクル・メンテナンス研究会

(1) 活動の概要

社会や産業を取り巻く環境は、地球温暖化などの環境問題やエネルギーの高騰、少子高齢化など、大きく変化してきている状況の中、高度成長期に建設された道路・橋梁・トンネルなどの社会資本構造物の高経年化に対する対策がいよいよ喫緊の課題になっている。今期の研究会は、社会資本を中心にライフサイクルを考慮した幅広い視野でのメンテナンスの研究を推進し、現場見学会ならびに講演会を実施している。

25 年度の実施状況は下記のとおりである。

- ・テーマ：持続可能な社会実現に向けた最適なメンテナンスのあり方
- ・研究会参加企業数：10 社
- ・委員長：早稲田大学 教授 高田祥三氏

開催日	内容	開催場所
第 103 回研究会 2013 年 4 月 24 日	見学：(独)港湾空港技術研究所 講演：東日本大震災の概要～港湾施設における地震と津波の被害～ 講師：(独)港湾空港技術研究所 海洋研究領域長 下迫 健一郎 氏	神奈川県 横須賀市
第 104 回研究会 2013 年 5 月 30 日	見学：東京スーパーエコタウン事業施設 中央防波堤内側スーパーエコタウン事業施設 城南島スーパーエコタウン事業施設	東京都大田区
第 105 回研究会 2013 年 6 月 20 日	見学：(一財)電力中央研究所 システム技術研究所 講演 1：システム技術研究所の研究概要と次世代グリッド用 ICT インフラ技術の開発について 講師：システム技術研究所 研究参事 芹澤 善積 氏 講演 2：需要家と連携した次世代グリッド運用技術の開発 講師：システム技術研究所 上席研究員 小林 広武 氏	東京都狛江市
第 106 回研究会 2013 年 7 月 19 日	講演：阪神高速道路の長期維持管理及び更新に関する技術検討について 講師：阪神高速道路(株) 技術部長 西岡 敬治 氏	JATES 会議室
第 107 回研究会 2013 年 8 月 23 日	見学：東京スカイツリー地区 東京スカイツリー地区冷暖房施設及び東京スカイツリーの見学	東京都墨田区
第 108 回研究会 2013 年 9 月 26 日	見学：NEXCO 東日本東京湾アクアライン(海ほたる) 講演：東京湾アクアラインの取り組み概要 講師：NEXCO 東日本 東京湾アクアライン管理事務所 所長 市川 敦史 氏	木更津市
第 109 回研究会 2014 年 1 月 24 日	講演：地域協働型インフラ管理のための人材育成と仕組みづくり 講師：岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 社会資本アセットマネジメント技術研究センター長 高木 朗義 氏	JATES 会議室

2-4 技術競争戦略研究会

(1)活動の概要

第IX期の主なテーマは下記のとおりである。

- ・変化する経営環境下でイノベーションにより、如何に柔軟対応しているか
- ・新しいビジネスモデル、ビジネス戦略を如何に展開しているか

- ・世界に通用する持続可能な実践的経営哲学を如何に確立しているか

第IX期は、企業を取り巻く環境変化に柔軟に対応して、イノベーションを起こし、グローバル市場開拓を目指して経営刷新を図っている企業の経営者から「具体的取り組み・経営哲学」をお話し頂くことを中心に実施した。

(2) 第IX期技術競争戦略研究会

第IX期研究会の実施状況は下記のとおりである。

- ・テーマ：変化に柔軟に対応して発展するオンリーワン経営に学ぶ実践的経営学
～経営トップの実体験に学ぶ経営哲学・経営手法～
- ・委員長：政策研究大学院大学 名誉教授 橋本 久義 氏
- ・参加企業：21 社

開催日	内 容	開催場所
第1回研究会 2013年4月25日	基調講演：中国フォックスコンから見た日本のものづくり 講師：ファインテック(株) 代表取締役社長 東京大学名誉教授 中川威雄氏	JATES 会議室
第2回研究会 2013年5月27日	見学：日立建機(株) 日立工場 講演：建設機械市場の動向とグローバル事業展開 講師：日立建機(株) 研究本部技術開発センタ長 三柳 直毅 氏	茨城県日立市
第3回研究会 2013年6月13日	講演：金属加工技術で世界のマーケットを目指す ～下町ボブスレープロジェクトにみる協業戦略～ 講師：(株)マテリアル 代表取締役社長 細貝 淳一氏	(株)マテリアル 東京都大田区
第4回研究会 2013年7月25日	講演：ロボットスーツが未来を変える 講師：筑波大学大学院システム情報工学研究科教授 筑波大学サイバニクス研究センター長、 CYBERDYNE(株)代表取締役社長 山海 嘉之 氏	ファイナンシャルアカデ ミー・レンタルセミナ ールム
第5回研究会 2013年8月30日	見学：早月事業所 (WJ 事業) 講演：自ら考え、自ら造り、自ら販売・サービスする (株)スギノマシン代表取締役社長 杉野 太加良 氏	富山県滑川市
第6回研究会 2013年9月19日	見学：鬼塚硝子 講演：匠の技とサイエンスの融合で創造的な製品開発 (株)鬼塚硝子 代表取締役社長 鬼塚 好弘 氏	東京都青梅市
第7回研究会 2013年10月24日	講演：元気なものづくり 300 社受賞 オープンテクノロジーの理念で新しい価値を創造する 講師：本多電子(株) 代表取締役社長 本多 洋介 氏	JATES 会議室

開催日	内 容	開催場所
第 8 回研究会 2013 年 11 月 14 日	講演：ネットワークの持つ巨大な可能性を切り拓く 講師：(株)インターネットイニシアティブ 代表取締役社長 鈴木 幸一 氏	JATES 会議室
第 9 回研究会 2013 年 12 月 19 日	講演：夢見る力は生きる力 講師：(株)生方製作所 代表取締役社長 生方 眞哉 氏	JATES 会議室
第 10 回研究会 2014 年 1 月 30 日	講演：グローバル戦国時代を迎えた我が社の経営戦略 講師：日華化学(株) 代表取締役社長 江守 康昌 氏	JATES 会議室
第 11 回研究会 2014 年 2 月 20 日	講演：「夢」があるからがんばれる 講師：(株)メラトン 代表取締役 新田一福 (Tran Ngoc Phuc)氏	JATES 会議室
第 12 回研究会 2014 年 3 月 18 日	講演：オンリーワン経営に学ぶ実践的経営学－総括－ 講師：技術競争戦略研究会委員長 政策研究大学院大学名誉教授 橋本 久義 氏	JATES 会議室

2-5 ICT 研究会

クラウドコンピューティングやスマートフォンの急速な普及など、ICT システムは益々重要になっている。今後の ICT 事業の成長を促進し、ICT 技術、ソリューションをリードしていく事の出来る、自律的な人材の育成を目的として、ICT に関わる企業の中堅幹部、エンジニアの方を対象に、平成 22 年度にスタートした。平成 25 年度は、参加企業・研究会メンバーの増強を図り、活動を充実・強化して推進した。

・参加者：9 社、13 名

2-6 センサーネットワーク研究会

センサネットワークの最新動向についてサプライ側、ユーザー側、学界等、各領域の研究で活躍している方を講師として招きその領域での課題、研究要素、ビジネス化の課題等を認識・議論する研究会を月 1 回程度、開催した。現在、30 社以上の企業が参加している。

委員長：元ソニー(株) 執行役常務 渡辺 誠一 氏		
開催日	内 容	開催場所
第 55 回研究会 2013 年 4 月 9 日	講演 1:センサ技術と Big Data は SmartCity/Building で如何にいかせるか、その成功の鍵は何か 講師：カリフォルニア大学 CITRIS 研究機構 担当理事井上隆秀氏 講演 2：脈状診による性格と無拘束高級検出の関わり 講師：(株)エム・アイ・ラボ 代表取締役社長高島充氏	JATES 会議室

開催日	内 容	開催場所
第 56 回 2013 年 5 月 27 日	講演：ヒートショックプロテイン(HSP)と分子シャペロン 講師：慶応義塾大学薬学研究科 教授 水島 徹 氏	JATES 会議室
第 57 回 2013 年 7 月 4 日	講演：バイオナノセンシング技術とその展望 講師：東京大学大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻 教授 高井 まどか 氏	JATES 会議室
第 58 回 2013 年 7 月 17 日	講演 1：高精度 MEMS 加速度センサ 講師：日本航空電子工業(株) 商品開発センター 高岡 昭浩 氏 講演 2：PNCR 方式を用いた光ファイバセンシング 講師：(株)渡辺製作所 センサ事業部製品開発部 小松 康俊 氏	JATES 会議室
第 59 回 2013 年 8 月 20 日	講演：血圧計を利用した動脈硬化度評価 講師：(独)産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 小峰 秀彦 氏	JATES 会議室
第 60 回 2013 年 9 月 26 日	講演：構造物センシングの現状と課題 講師：(一財)構造物センシング機構 代表理事 板生清氏	JATES 会議室
第 61 回 2013 年 10 月 31 日	講演：成長戦略の切り札「省インフラ」とは何か 講師：東洋大学 PPP 研究センター 難波 悠氏 講演：920MH z 無線マルチホップの構造物監視への応用について 講師：沖電気工業(株) 通信システム本部スマートコミュニケーション事業部 橋爪 洋氏	JATES 会議室
第 62 回 2013 年 12 月 10 日	講演：ウェアラブルセンサを活用したヘルスケアサービスの展望と課題 講師：WIN フロンティア(株) 代表取締役 板生 研一氏	JATES 会議室
第 63 回 2014 年 2 月 17 日	講演 1：レーザーによるトンネル覆工の健全度検査技術 講師：(公財)鉄道総合技術研究所 構造物技術研究部 主任研究員 篠田 昌弘 氏 講演 2：赤外線によるコンクリート構造物の健全度検査技術 講師：コンステック(株) 執行役員 西川 忠 氏	JATES 会議室
第 64 回 2014 年 3 月 25 日	講演：発電設備における異常予兆の早期発見 講師：マド・プランニング 代表取締役 吉岡 匠 氏	JATES 会議室

2-7 アジアビジネス研究会

第一期の研究会の実施状況は下記のとおりである。

委員長：日本電信電話(株) 顧問 宇治 則孝 氏

開催日	内容	開催場所
第1回 2013年4月24日	基調講演：アジアビジネス展開における我が国の産業政策 講師：経済産業省通商政策局アジア大洋課 伊藤 建氏 講演：アジアビジネス展開における中小企業支援策 講師：経済産業省 中小企業庁 経営支援部 新事業促進課 小林 寛 氏	ホテルグラン ドパレス
第2回 2013年6月7日	講演：カンボジアの投資環境と企業動向 講師：JETRO 海外調査部 アジア大洋州課 小野沢 麻衣氏 講演：カンボジアにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第四課 課長 府川 賢祐 氏 講演：王子グループのカンボジア事業展開の概要 講師：王子マネジメントオフィス(株) 海外事業部 上席主幹 田辺 英司 氏	日本ファインソナル アカデミー会議室
第3回 2013年7月19日	講演：フィリピンの投資環境とビジネス動向 講師：JETRO 海外調査部 アジア大洋州課 倉沢 麻紀 氏 講演：フィリピンにおけるインフラ整備の現況・課題 と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第五課 柳内 将成 氏 講演：フィリピン沿岸警備隊(PCG)通信システム強化 プロジェクト 講師：日本無線(株) ソリューション事業部 水上 美由喜 氏	ホテルグラン ドパレス
第4回 2013年9月13日	講演：ベトナムの裾野産業育成に向けて 講師：JETRO 海外調査部 アジア大洋州課 大久保 文博 氏 講演：ベトナムにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第三課 課長 立松 信吾 氏 講演：大林組のベトナムでの ODA プロジェクト 講師：(株)大林組 東北支店 福島中央除染 JV 川内 哲 氏	日本ファインソナル アカデミー会議室

開催日	内 容	開催場所
第 5 回 2013年10月18日	講師：ミャンマーのビジネス投資環境と日系企業の動向 講師：JETRO 海外調査部アジア大洋州課小島 英太郎 氏 講演：ミャンマーにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部東南アジア第四課副調査役 橋本 秀憲 氏 講演：ミャンマーの通信インフラ網構築の現状と今後の展望 講師：日本電気(株) 中華圏・APAC 本部担当 新井 亮太 氏	ホテルグラン ドパレス
第 6 回 2013年11月17 ～23日	【特別プログラム】 ミャンマー&ベトナムの政府機関並びに日系企業訪問と交流会 訪問先：JETRO、JICA、東芝、大林組、NTT データ、ティラワ工業団地、ミンガラドン工業団地 etc	
第 7 回 2013年12月20日	講演：インドネシアのビジネス投資環境と日系企業の動向 講師：JETRO 海外調査部アジア大洋州課 塚田 学 氏 講演：インドネシアにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部東南アジア第一課課長 下川 貴生 氏 講演：インドネシアにおける住友電工のインフラ構築の現状と今後の展望 講師：住友電気工業(株) 海外営業部 海外 FTTH 営業推進室 主席 中村 芳和 氏	日本ファイナンス アカデミー会議室

2-8 BCP研修

中堅・中小企業等の要請に応えた危機管理研修の一環として、BCP (Business Continuity Plan) 研修を福井県傘下の企業3社を対象に出前研修として試行した。

- ・研修期間：平成25年5月～9月
- ・研修回数：6回
- ・研修者数：24名/回

導入研修として好評であったので、この実績を踏まえ、平成26年度さらにBCP研修の出前研修を充実すべく準備を進めた。

2-9 FF会

当会が、企画・運営の支援を行っているFF会については、原則として毎月第4金曜日
に開催し、科学技術等に関する諸問題に関する卓話を行い、それに基づき議論を行って
いる。平成25年度は「これからの新しい日本をデザインする Part2」をテーマに掲げて、例
会9回、見学会1回、研修会1回を実施した。

(内容の詳細についてはWebサイトに掲載)

3 普及啓発事業

3-1 第41回技術・経営シンポジウムの実施

平成25年度は、産業競争力・経済政策、農業問題とTPP戦略、先端医療応用、そして
社会・文化の多方面から、我が国のサステナビリティに対する取組を強化し、日本の再生
を目指すシンポジウムを開催した。

開催日	内容	開催場所
◇テーマ：我が国のサステナビリティを強化・推進する		出席数：115名
2013年4月19日 9:30～17:00	講演：世界経済の潮流と日本経済再生の処方箋 講師：(株)大和総研 チーフエコノミスト熊谷 亮丸氏	ホテルグラン ドパレス
	講演：TPP戦略と農業問題 講師：(一財)国際経済交流財団 会長 畠山 襄 氏	
	講演：iPS細胞医療応用による人類社会の今後 講師：京都大学 iPS細胞研究所(CiRA) 副所長 戸口田 淳也 氏	
	講演：21世紀の日本に求められるリーダーとは 講師：東海旅客鉄道(株) 代表取締役会長 葛西敬之氏	
	講演：文化力の時代～アジアにおける日本の役割～ 講師：国立新美術館 館長 青木 保 氏	

3-2 機関誌「技術と経済」の発行

科学技術と経済の会の各研究会の活動成果を広く普及啓発するために、各研究会の講演
録を主体とする構成とし、さらにMOT学会の査読論文等も加え、掲載記事の一層の内容
の充実をはかった。(特集テーマについてはWebサイトに掲載)発行号数は、平成25年度
末で565号を数えるに至った。

3-3 技術経営・イノベーション賞

第二回は、新たに経済産業大臣賞を設定するとともに、後援機関として経済産業省と日
刊工業新聞社を加えて実施した。

(1) 第二回表彰式 2014年2月18日 ホテルグランドパレス

- ①主催者挨拶：(一社) 科学技術と経済の会会長 佐々木 元
②来賓挨拶：文部科学省 科学技術・学術政策局長 川上 伸昭 氏
経済産業省 大臣官房審議官 安永 裕幸 氏
③受賞テーマと受賞者

表彰	テーマ	受賞者
文部科学大臣賞	小型・低消費電力な携帯電話基地局の実現に向けた「高電圧動作・高効率窒素化ガリウムトランジスタ(GaN HEMT)の立ち上げ	住友電気工業(株)
経済産業大臣賞	発熱、保温、保湿、吸汗速乾など10の機能を併せ持つ機能性インナーウェアの開発	(株)ファーストリテイリング、東レ(株)
科学技術と経済の会会長賞	URUP(Ultra Rapid Under Pass)工法	(株)大林組
科学技術と経済の会会長賞	長期冷蔵保存技術による生鮮品の新たなコールドチェーン物流インフラの構築	(株)MARS Company

3-4 ホームページの活用

一般社団法人への移行に合わせてリニューアルし、有効に機能させるべく、主なイベント情報、研究会情報や機関誌情報等、迅速かつ充実した情報発信力の強化を図った。

3-5 名古屋支部活動

当会が広くお役にたてるよう、支部活動を通じた会員相互の緊密な連携を図るため、談話会(10回)及び講演会ならびに企業見学会(2回)等の活動を実施した。

4 国際活動事業

米国 IRI (Industrial Research Institute, Inc.)、欧州 EIRMA (European Industrial Research Management Association)、中国科学技術協会(CAST)、韓国産業技術振興協会(KOITA)等 科学技術振興を目指す海外の民間団体等との交流を図るとともに、「科学技術と経済の会」の各種研究活動を国際会議に紹介する等情報交流を続けた。

平成25年度は上記に加え、アジアビジネス研究会の活動として、ベトナム・ミャンマーを訪問し、両国それぞれが進める産業政策の一環とした工業団地視察や、両国へ進出している日本企業、JICA海外事務所、JETRO海外事務所との交流を推進した。

なお、ローマクラブ日本支部実行委員会は平成25年度開催されませんでした。引き続き状況把握に努めた。

5 受託・助成事業

5-1 「21世紀型産業技術ビジョン形成研究」 (受託研究)

—グローバル化の中でのわが国技術の方向を探る—

- (1) 調査研究委託機関：(一財) 新技術振興渡辺記念会
- (2) 期 間：平成 24 年 10 月～平成 25 年 10 月
- (3) 調査研究の概要：

今や日本産業の代表であった半導体やエレクトロニクスの大企業が大幅赤字・リストラを余儀なくされ、わが国の将来を担う研究開発費はここ数年 2 兆円近く落ち込んでいる。産業界はそれぞれが生き残りのための道筋を模索しているような状況下にある。これまでの調査研究の蓄積を活用し、わが国の 21 世紀産業技術ビジョンを作成、グローバル化の中での産業界の生き残り策を抽出し、これを支える技術経営の在り方の報告書をまとめた。

5-2 「細胞科学の最新動向調査とその健康化社会への貢献可能性に関する研究」(研究助成)

- (1) 助成機関：(一財) 新技術振興渡辺記念会
- (2) 期 間：平成 25 年 4 月～平成 25 年 9 月
- (3) 調査研究の概要：

高齢化が進む今日、活力ある健康化社会が求められている。一方、再生医療や創薬のための細胞科学研究が進展し複雑系である「健康」の問題への貢献も期待されている。新たな健康科学確率を目指し、最近注目される“細胞科学”の最新動向を調査し、その貢献の可能性を検討し報告書をまとめた。

5-3 「社会インフラ構造物の老朽化危機に向けた維持・管理とセンサ活用に関する研究」 (研究助成)

- (1) 助成機関：(一財) 新技術振興渡辺記念会
- (2) 期 間：平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月
- (3) 調査研究の概要：

近年、社会インフラ構造物の老朽化に伴い事故が多発しており、その効果的且つ効率的な維持・管理が課題となっている。そこで最近注目されるセンサ解析技術、社会システムの最新動向を調査し、その持続可能な社会システム確立への貢献の可能性を検討し報告書をまとめた。

5-4 事務局受託業務

- (1) 委託機関：(一社) 技術同友会
- (2) 契 約 日：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
- (3) 業務概要：例会・幹事会・委員会運営、技術経営士認定制度関連事務等

6 永年表彰

永年会員表彰：個人会員 11名

7 会の動き

7-1 会員数

名誉会員は武安義光、豊田章一郎、の2氏であり、個人会員、特別会員の状況は下表のとおりである。

区 分	平成 24 年度末	平成 25 年度末	平成 25 年度		増 減
			入会	退会	
個人会員	538	513	21	46	△25
特別会員	103	95	2	10	△8

7-2 事務局

平成 26 年 3 月 31 日現在の職員は 16 名である。この内訳は、技術経営会議 3 名、明日の経営を考える会 2 名、調査研究部 2 名、事業部 3 名、編集部 1 名、技術同友会事務局 2 名、総括部 3 名で構成し、この中 8 名は出向者である。

7-3 諸会議

開催日	内容	開催場所
第 147 回理事会 2013 年 4 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度事業報告・決算報告(案)について 理事・監事の選任(案)について 	ホテルグラン ドパレス
第 47 回通常総会 2013 年 5 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度事業報告・決算報告(案) 理事・監事の選任(案)について 	
第 148 回理事会 2013 年 10 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度上期事業報告について 第 2 回技術経営・イノベーション賞の実施状況報告について 政策提言の実施報告について 平成 25 年度上期代表理事・業務執行理事業務報告について 	
第 149 回理事会 2014 年 3 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度事業計画・収支予算(案)について 第 2 回「技術経営・イノベーション賞」表彰の実施について 次期総会における永年会員感謝状贈呈者 機関誌「技術と経済」の価格改訂について 平成 25 年度下期代表理事、業務執行理事業務報告について 	